

生涯スポーツについて ——剣道教室の場合——

平木宏児・長井祐二*

A Study on Life time Sport in case of Kendo Class

Koji HIRAKI・Yuji NAGAI*

要 約

スポーツ活動をする上での課題として、環境・施設・指導者などが考えられ、また多くのスポーツについての研究もなされているが、ここでは日本古来の武道の一つでもある「剣道」をしている子どもたちの実状について調査を試みた。

本調査では、全体の90%の者が幼稚園もしくは小学校低学年から習い始め、中学生においても42.86%と約半数の者が幼稚園から習い始めているということから、児童のスポーツへの参加もまた増大し低年齢化してきているといえよう。

習い始めた理由については、好きで始めた、親から進められて、友達がやっていたから、などの理由があげられ、剣道が「好きで始めた」という人の理由としては、相手と打ち合える対人競技、かっこいいと思ったなどがあげられた。また、「親から進められて」始めた人のうち半数以上の者が好きになったという結果が得られた。

級・段位を取得するということは、武道の特徴であるが学習者の目的となり学習の成果を知ることにより、一層の励みにもなるものと思われる。試合についても大多数の者が「好き」という結果が得られた。スポーツの効果については、多くの子供が礼儀正しくなったとか身体が健康になった或いは声が多くなったなど、学習前との変化を認めているようである。

キーワード：生涯スポーツ・剣道・児童

* 追手門学院大学 非常勤講師

I 緒 言

近年、生涯スポーツが社会的に注目されるようになり多くの研究がなされてきているが、スポーツの継続化をめぐる研究もその重要性を増してきている。生涯スポーツは「継続」と言うことが重要な課題といえる。その意味からも子供時代のスポーツ活動について見ることは大きな意義がある。金崎良三らによれば、スポーツ・コミットメントの形成には、両親がスポーツ好きであること、父親のスポーツ経験が豊かであること、スポーツを実施している兄弟姉妹がいることや、小学校および中学校時代にスポーツを勧めてくれたりした重要な他者がいることなどが影響を与えているとしている¹⁾。

スポーツ活動への参加モデルとして図1のように、スポーツとの出会いから始まり、参加そして継続・傾注となる。

そこで大切なことは「良いスポーツ」との出会いが大切だといえよう。「良い出会い」があればスポーツの実施に対する感情は「楽しさ」や「充実感」と言うものになり、継続するという形態を生むものであろう。反対にスポーツに対して「嫌悪」を持つようであれば、スポーツ以外の活動をすることになるであろう。

スポーツ活動をする上での課題として、環境・施設・指導者などが考えられるが、ここでは研究者が実施している日本古来の武道の一つでもある「剣道」をしている子どもたちの実状について調査を試みた。

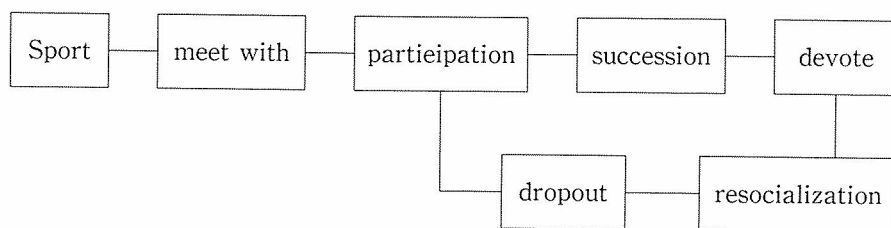


図1 スポーツ参加への時系

II 方 法

1 調査の概要

(1) 調査対象

調査は、剣道教室に参加している、幼稚園児・小学生・中学生を対象に行った。その結果 144 名から有効回答を得た。対象者の内訳は、幼稚園児 8 名（男子 8 名、女子 0 名）、小学生 115 名

(男子92名, 女子23名), 中学生14名(男子11名, 女子3名)で, なお, 回収率は84.7%であった。

結果と考察にあたっては, 本研究では幼稚園児を幼児とし, 小学校1年生～3年生を低学年, 小学校4年生～6年生を高学年, 中学生の4つに区分して比較した。

(2) 調査の内容と方法

本研究の目的に沿って調査票(「剣道を習っている子供の実態について」)を作成し, 対象者の剣道を習い始めた時期, 始めた理由, 級・段位について, 試合について, 剣道を習った結果などについて調査した。

調査票は, 各受講生に手渡し, 各自が回答できるものは本人が行い, 園児および小学低学年については親が聞き取りによって回答する方法を指導した。

(3) 調査時期

調査の時期は, 1994年12月である。

III 結果と考察

1 習い始めた時期と理由

剣道を習い始めた時期については表1である。全体の90%程が幼稚園もしくは小学校低学年から習い始めている。男子と女子を比べてみると, 幼稚園から習い始めたのは男子は53.39%, 女子は19.23%と男子の方が多く, 小学校低学年から習い始めたのは男子は39.83%, 女子は53.85%と女子の方が多い。また, 男子は小学一年までで82.20%のものが習い始めているが, 女子は小学二年生が23.08%で最高値で, 小学六年生が一人もいないということを除くと習い始めは各学年にまたがっており, 男子と女子の違いが見られる。また, 中学生から始めたものも14.29%いるが, その反面, 現在の中学生のうち42.86%と約半数が幼稚園から始めている。これらのものは継続性があるということがいえよう。

表2は, 習い始めた理由であるが「好きで始めた」38.19%, 「親から進められた」26.39%, 「友達がやっていたから」15.97%となり, これは男女とも同様の傾向を示している。また, 幼児は当然のことながら「親から進められた」が50.00%と半数を占めているが, その数は低学年20.93%, 高学年25.32%となるにしたがって数は減少している。しかし中学生が35.71%となっているが, これは先に述べたように半数のものが幼稚園および小学校低学年から始めたものが多いことからこのような結果になったものと考えられる。また, 剣道が「好きで始めた」人のうち, 好きな理由としては, 剣道独特の「稽古着や袴, 防具をつけてみたかった」19.30%, よりも「相手と打ち合える対人競技」, 「カッコいいと思った」とが両者ともに40.35%であった。「親から進められた」と答えた人で, 「好きになった」と答えた人は60.98%であった。

表 1 剣道を習い始めた時期

(%)

	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
幼稚園年小	38.14	7.69	37.50	48.84	26.58	14.29
幼稚園年中	15.25	11.54	62.50	13.95	7.59	28.57
小学一年	28.81	15.38	—	23.26	30.38	28.57
小学二年	7.63	23.08	—	9.30	12.66	7.14
小学三年	3.39	15.38	—	4.65	6.33	7.14
小学四年	4.24	11.54	—	—	10.13	0.00
小学五年	2.54	7.69	—	—	6.33	0.00
小学六年	0.00	0.00	—	—	0.00	0.00
中学	0.00	7.69	—	—	—	14.29
有意性	$\chi^2=53.880$		$\chi^2=222.103$			

表 2 習い始めた理由

(%)

習い始めた理由	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
好きで始めた	39.83	30.77	0.00	46.51	37.97	35.71
稽古着や袴をつけてみたかった	2.54	0.00	0.00	2.33	2.53	0.00
親から勧められた	26.27	26.92	50.00	20.93	25.32	35.71
友達がやっていたから	14.41	23.08	0.00	16.28	16.46	21.43
防具をつけてみたかった	5.93	3.85	25.00	9.30	2.53	0.00
その他	11.02	15.38	25.00	4.65	15.19	7.14
有意性	$\chi^2=7.364$ P < 0.001		$\chi^2=141.635$			
親から勧められた結果						
好きになった	64.71	42.86	100.00	66.67	50.00	60.00
あまり好きになれない	35.29	57.14	0.00	33.33	50.00	40.00
やめたくてたまらない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
有意性	$\chi^2=9.742$ P < 0.001		$\chi^2=69.648$			
剣道が好きになった理由						
稽古着や袴，防具をつけてみたかった	22.92	0.00	—	20.00	21.88	0.00
相手と打ち合える対人競技だから	37.50	55.56	—	25.00	43.75	80.00
カッコいいと思った	39.58	44.44	—	55.00	34.38	20.00
有意性	$\chi^2=26.633$		$\chi^2=69.648$			

2 練習回数と他のスポーツとの関係

剣道の練習を週何回しているか、あるいは剣道以外のスポーツの実施についての結果は表3のとおりで、まず、練習回数は週「2回」というのが49.31%を示し、幼児の100%以外は週「1回」と「3回」に別れているが、中学生は週「4回以上」というのが28.57%となっている。

剣道以外のスポーツをしているかということでは、他のスポーツ種目を実施している子供は全体の43.05%で約半数の子供が剣道以外のスポーツも行っており、男女別では男子の方が多く、その種目については「水泳」が20.14%を占め他のスポーツ種目より多い。調査対象の子供は剣道はもちろんのこと他のスポーツ種目も実施している。これは、子供自身スポーツが好きであったり、両親がスポーツに理解を示しているものと思われることと、民間のスイミングスクールが近くにあるなどの環境がこのような結果になったものと思われる。

表3 一週間の練習回数と他のスポーツ実施

(%)

練習回数	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
一回	26.27	19.23	0.00	34.88	25.32	7.14
二回	47.46	57.69	100.00	44.19	48.10	42.86
三回	22.88	15.38	0.00	18.60	25.32	21.43
四回以上	2.54	7.69	0.00	2.33	0.00	28.57
無回答	0.85	0.00	0.00	0.00	1.27	0.00
有意性	$\chi^2=7.198$ P <0.001		$\chi^2=188.805$			
他のスポーツ種目						
サッカー	6.78	3.85	0.00	6.98	6.33	7.14
野球	7.63	0.00	0.00	6.98	7.59	0.00
テニス	1.69	0.00	0.00	0.00	0.00	14.29
水泳	22.88	7.69	25.00	34.88	13.92	7.14
体操	0.85	0.00	12.50	0.00	0.00	0.00
その他	7.63	11.54	0.00	2.33	12.66	7.14
有意性	$\chi^2=12.818$ P <0.001		$\chi^2=148.933$			

3 級・段位および試合について

武道以外の他のスポーツでは見られない級・段位については表4で、全体では1級から8級までばらけているが、女子は5級に集中し、男子では1級～5級にまたがっている。また、現在の段位に合格するのに要した回数については、ほとんどの場合「1回」で合格している。これは指導者が剣道の特質である級・段位の取得に向けて指導し、子供に「楽しみ」や「自信」を持たせるようにしている結果と考えられる。合格したときの気持ちは表5であるが、「まあまあ嬉しかった」「嬉しくてたまらなかった」が大半であることから級・段位の取得という目的があるということは、多くの子供達にとって大切なことであるといえよう。

表4 現在の級・段位と合格しに要した回数

(%)

級・段位	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
八級	4.24	0.00	62.50	0.00	0.00	0.00
七級	5.08	3.85	25.00	11.63	0.00	0.00
六級	10.17	0.00	0.00	20.93	3.80	0.00
五級	9.32	23.08	0.00	23.26	8.86	0.00
四級	14.41	11.54	0.00	13.95	17.72	0.00
三級	14.41	7.69	0.00	2.33	22.78	0.00
二級	9.32	7.69	0.00	0.00	16.46	0.00
一級	22.03	11.54	0.00	0.00	21.52	85.71
初段	0.00	3.85	0.00	0.00	0.00	7.14
なし	11.02	30.77	12.50	27.91	8.86	7.14
有意性	$\chi^2=38.486$		$\chi^2=692.569$			
合格に要した回数						
一回	88.98	65.38	87.50	76.74	87.34	92.86
二回	1.69	3.85	0.00	0.00	3.80	0.00
なし	9.32	30.77	12.50	23.26	8.86	7.14
有意性	$\chi^2=16.507$		$\chi^2=25.300$			

表5 合格したときの気持ち

(%)

合格したときの気持ち	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
嬉しくなった	3.39	7.69	0.00	2.33	3.80	14.29
まあまあ嬉しかった	44.92	26.92	50.00	27.91	44.30	64.29
嬉しくてたまらなかった	42.37	34.62	37.50	46.51	43.04	14.29
無回答	9.32	30.77	12.50	23.26	8.86	7.14
有意性	$\chi^2=19.491$		$\chi^2=68.059$			

次に、試合の経験のある者88.19%（男子91.53%，女子73.08%）について試合が好きであるかという問いは表6である。多くの子供が「試合が好き」90.55%であると答えている。特に，中学生では全員が「好き」であると答えているのが特徴的である。また，試合の経験のない子供も試合を希望するかということについては表7で，「やりたくない」という子供は一人もいなく，むしろ「はやくやりたい」（52.94%）と思っているようで，とりわけ幼児，中学生では全員が希望している。

表6 試合の経験と好きか嫌いか

(%)

試合経験	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
ある	91.53	73.08	87.50	76.74	93.67	92.86
ない	8.47	26.92	12.50	23.26	6.33	7.14
無回答	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
有意性	$\chi^2=12.502$		$\chi^2=17.021$			
試合が好きか嫌いか						
好き	90.74	89.47	85.71	96.97	86.49	100.00
嫌い	8.33	5.26	0.00	3.03	12.16	0.00
無回答	0.93	5.26	14.29	0.00	1.35	0.00
有意性	$\chi^2=3.376$ P <0.001		$\chi^2=65.113$			

表7 試合を希望するか

(%)

試合の希望	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
早くやりたい	63.64	33.33	100.00	40.00	60.00	100.00
やりたくない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
どちらでもよい	36.36	66.67	0.00	60.00	40.00	0.00
無回答	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
有意性	$\chi^2=19.237$		$\chi^2=144.000$			

試合が好きな理由と嫌いな理由は表8であるが，好きな理由の多い数値でいくと「勝っても負けてもおもしろいから」34.03%，「自分の実力が試せるから」27.78%，「試合に入賞したときの感激が最高だから」17.03%の順となっている。勝っても負けてもおもしろいからという理由より，自分の実力が試せるからといった方が高い数値を示したのが高学年および中学生であった。嫌いな理由としては，男子は「勝ったときはよいが負けるのがいやだから」50.00%と「自分に実力が無いと思うから」25.00%で，女子は全員が「勝っても負けてもおもしろくないから」と答えている。

表8 試合が好きな理由と嫌いな理由

(%)

試合の好きな理由	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
勝っても負けてもおもしろいから	34.75	30.77	50.00	34.88	31.65	35.71
試合に入賞したときの感激が最高だから	20.34	3.85	12.50	23.26	15.19	14.29
試合の緊張感が好きだから	2.54	0.00	0.00	4.65	1.27	0.00
自分の実力が試せるから	27.12	30.77	12.50	13.95	34.18	42.86
その他	1.69	0.00	0.00	2.33	1.27	0.00
無回答	13.56	34.62	25.00	20.93	16.46	7.14
有意性	$\chi^2=25.185$		$\chi^2=59.851$			
試合が嫌いな理由	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
勝っても負けてもおもしろくないから	12.50	100.00	—	0.00	28.57	—
勝った時はよいが負けるのがいやだから	50.00	0.00	—	100.00	28.57	—
試合の時に緊張するから	0.00	0.00	—	0.00	0.00	—
自分に実力が無いと思うから	25.00	0.00	—	0.00	28.57	—
その他	12.50	0.00	—	0.00	14.29	—
有意性	$\chi^2=154.981$		$\chi^2=111.075$			

4 剣道をして変化したことから

武道は礼に始まって礼に終わるといわれているほど礼については厳しいスポーツであるが、剣道をして礼儀が正しくなりましたかという問について表9を見ると、「正しくなった」48.61%、(男子52.54%、女子30.77%)で約半数のものが正しくなったと答えている。剣道をして一番変わったことについては表10で、各項目ともに平均しているが、全体の順位で見ると「身体が強くなった」22.22%(男子23.73%、女子15.38%)、「声が大きくなった」21.53%(男子22.03%、女子19.23%)、である。幼児は「声が大きくなった」(50.00%)低学年では「声が大きくなった」、「自分に自信ができた」(両方とも25.58%)、高学年、中学生は「身体が強くなった」

表9 剣道をして礼儀が正しくなりましたか

(%)

礼儀について	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
正しくなった	52.54	30.77	62.50	41.86	51.90	42.86
あまりかわらない	39.83	61.54	25.00	48.84	44.30	35.71
ぜんぜんかわらない	7.63	7.69	12.50	9.30	3.80	21.43
無回答	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
有意性	$\chi^2=10.507$ P < 0.001		$\chi^2=27.415$			

(高学年21.52%，中学生42.86％)で，それぞれで一位となり，幼児や低学年と高学年ならびに中学生との違いを声の大きさや自分自身への自信ということから身体面への変化がみられた。

表10 剣道をして一番変わったこと

	(％)					
剣道をして変わったこと	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
声が大きくなった	22.03	19.23	50.00	25.58	18.99	21.43
姿勢が良くなった	5.08	34.62	0.00	4.65	16.46	0.00
挨拶がよくできるようになった	6.78	0.00	0.00	2.33	8.86	0.00
身体が強くなった	23.73	15.38	0.00	18.60	21.52	42.86
友達がたくさんできた	18.64	23.08	12.50	18.60	20.25	21.43
自分に自信ができた	18.64	7.69	12.50	25.58	11.39	14.29
その他	5.08	0.00	25.00	4.65	2.53	0.00
有意性	$\chi^2=41.655$		$\chi^2=175.812$			

子供に武道を習わせるという背景には，礼儀正しくなるとか精神力を養成できるとか健康体操として良いなどが挙げられるが，一応の結果が見られているようである。

剣道をいつまで続けるかについては表11であるが，約半数の子供が「自分の可能性を最後まで追求したい」(50.69％)としているが，「すぐにでもやめたい」(女子3.85％)と答えた若干の女子以外は，中学生になるまでとか，初段を取るまで，と何らかの区切りを目標にしているようである。

表11 いつまで剣道を続けるか

	(％)					
いつまで剣道をするか	男子	女子	幼児	低学年	高学年	中学生
すぐにでもやめたい	0.00	3.85	0.00	0.00	1.27	0.00
中学生になるまで	29.66	7.69	0.00	20.93	35.44	0.00
初段をとるまで	23.73	19.23	0.00	27.91	20.25	35.71
自分の可能性を最後まで追求したい	46.61	69.23	100.00	51.16	43.04	64.29
無回答	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
有意性	$\chi^2=21.486$		$\chi^2=129.711$			

IV まとめ

1 スポーツへの参加が大衆化し，従来スポーツへの参加が少ないといわれてきた女性や老

人のスポーツへの参加が増大し、一種の平準化傾向にあるといわれているが、児童のスポーツへの参加もまた増大してきていることも事実である。本調査では、全体の90%の者が幼稚園もしくは小学校低学年から習い始め、中学生においても42.86%と約半数の者が幼稚園から習い始めているということから、低年齢化しているといえよう。

習い始めた理由については、好きで始めた、親から進められて、友達がやっていたから、などの理由があげられ男女間に余り差異は見られなかった。剣道が「好きで始めた」者の理由としては、相手と打ち合える対人競技、かっこいいと思った、などがあげられ現代の子供の気質の一端が伺えるようである。また、「親から進められて」その結果半数以上の者が好きになったということからも児童期における両親の影響はかなりあるといえよう。

本調査対象の子供たちは、剣道以外にも他のスポーツをしている者が約半数いるということから、子供自身スポーツが好きであったり、環境面においてもスポーツの実施に恵まれているということが特徴的である。

2 級・段位を取得するという事は、学習者の目的になり学習の成果を知ることにより、一層の励みにも成るものと思われる。

試合についても大多数の者が「好き」であり、試合の経験のない者も「はやくやりたい」と思い、級・段位と同じくスポーツの場合「試合」が占める役割りは大きく、試合の楽しさをしらしめることによってより一層の学習効果が高まるものと思われる。

スポーツの効果については競技力の向上や心身の健康など多々挙げられているが、多くの子供が礼儀正しくなったとか身体が健康になった或いは声が大きくなったなど、学習前との変化を認めているようである。また、自分自身に自信を持てるようになったなど心的変化も認められ、スポーツへの参加による変化を伺わせている。

文 献

- 1) 金崎良三・橋本公雄 (1995) 青少年のスポーツ・コミットメントの形成とスポーツの継続化に関する研究：中学生・高校生を対象に。体育学研究 39：363-376.
- 2) 前田博子 (1995) コミュニティーがあるスポーツ指導。一生涯スポーツに目を向けたスポーツ指導を一、指導者のためのスポーツジャーナル, NO180.2-5.
- 3) 南郷継正 (1980) 武道とは何か。一武道綱要一, 三一書房
- 4) 荒井貞光・東川安雄 (1991) 生涯スポーツチェック99. 大衆館書店
- 5) ポール・ワイス著・片岡暁夫訳 (1992) スポーツとはなにか。不味堂出版
- 6) 中村敏雄・出原泰明・等々力賢治 (1991) 現代スポーツ論。大衆館書店
- 7) ポール・ラングラン著・波多野完治訳 (1990) 生涯教育入門。全日本社会教育連合会
- 8) 波多野完治 (1989) 生涯教育論。小学館
- 9) 佐野豪 (1989) 余暇時代の生涯教育。一生涯レクリエーションの今日的課題一, 泰流社

平木・長井：生涯スポーツについて

- 10) 松井三雄・水野忠文・江橋慎四郎（1965）体育測定法，杏林書店
- 11) 松木康夫（1992）攻めと守りの健康法，福井銀行健康保険組合

1995年9月28日 受理